

小林正人『サブプライム金融危機の機序と「サブプライム証券化機構」』2018 年

問題提起

「このときからリーマン社は、証券化商品の価格崩落による所有資産の減損と、短期金融市場の信用収縮とに挟まれて債務超過の危機にあった」(P.50 L.38)とあるが、なぜ短期金融市場で信用収縮が発生したのか。

選んだ理由

短期金融市場で信用収縮がどのように発生したのかを考えることが重要だと思ったから。

A グループ

BNP パリバの傘下にあった 3 つのファンドの SPL 証券化商品投資の失敗による取引停止が、証券化商品の損失により資金調達が危機的な預金銀行がほかにいるのではないかという不信感を高め、短期金融市場で信用収縮が発生した。

B グループ

保守的な銀行であった IKB の ABCP すら売れなくなったことで ABCP 全体が不信用となり、他の金融機関も ABCP 発行による資金調達ができなくなった。また、フランス第 1 位の預金銀行がバックにいるファンドすら SPL 証券化商品の投資で失敗し、不信用がさらに高まった。このようなサブプライム証券化機構の中の不信用が、欧州のインターバンク市場で信用収縮を発生させた。

C グループ

保守的で堅実な銀行だった IKB の ABCP すら売れなくなったことで、短期金融市場で売られる ABCP 全体が不信用になり、さらに、フランス第 1 位の預金銀行がバックにいるファンドすら SPL 証券化商品の投資で失敗したことで資金調達が危機的な預金銀行がほかにいるのではないかという不信用が高まった。サブプライム証券化機構の中の不信用が、その大口顧客だった欧州の金融機関の巨額損失を導火線に短期金融市場で信用収縮が発生した。

D グループ

ドイツ産業銀行が SPL 証券化商品への投資で失敗しただけでなく、フランス第 1 位の預金銀行がバックにいるファンドですら所有する SPL 証券化商品の価格が崩落して、その資産評価ができなくなったことで証券化商品の投資で資金調達が危機的な預金銀行がほかにいるのではないかという不信用が高まり、預金銀行相互の貸借市場であるインターバンク市場（短期金融市場）で急激な信用収縮が発生した。